

会 議 録

◇事務局ー子ども家庭部子ども若者課

電話：03(4566)2471

附属機関又は 会議体の名称	第3期 第5回豊島区子どもの権利委員会	
事務局（担当課）	子ども家庭部子ども若者課	
開 催 日 時	令和5年7月24日（月）午後3時30分～午後5時30分	
開 催 場 所	豊島区役所本庁舎8階 807・808 会議室	
議 題	<p>1 開 会</p> <p>2. 議 事</p> <p>（1）「豊島区子ども・若者総合計画」改定に係る区民の実態・意識に関する調査項目の検討</p> <p>3. 報 告</p> <p>（1）「としま子どもの権利相談室」の開設について</p> <p>（2）子どものための相談カードのキャラクターについて</p> <p>（3）令和5年度「としま子ども会議」の実施概要について</p> <p>（4）中学校内居場所づくりについて</p> <p>（5）子ども版区民の声「子どもレター」の導入について</p> <p>（6）「中小規模公園活用プロジェクト」の取り組みについて</p> <p>3 閉 会</p>	
公 開 の 可 否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 6名
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
出 席 者	委 員	南野委員、内田委員、高田委員、山本委員、豊田委員、臼井委員、北澤委員

	関係理事者	子ども家庭部長、児童相談所長、教育部長、子ども若者課長、子育て支援課長、児童相談課長、子ども家庭支援センター所長、保育課長、統括指導主事（指導課長代理）、放課後対策課長、教育センター所長、区民相談課長、公園緑地課長
	事務局	子ども若者課管理・計画係長、子ども若者課職員
提出された資料等		資料1 豊島区子ども・若者総合計画の改定について 資料2 子どもの実態・意識に関する調査の質問項目の検討 資料3 としま子どもの権利相談室の開設について 資料4 子どものための相談カードのキャラクターについて 資料5 令和5年度「としま子ども会議」の実施概要について 資料6 中学校内居場所づくりについて 資料7 子ども版区民の声「子どもレター」の導入について 資料8 「中小規模公園活用プロジェクト」の取り組みについて

審 議 経 過

【開 会】

事務局より資料確認

【協議事項】

会 長 それでは、議事の（１）「豊島区子ども・若者総合計画」改定に係る区民の実態・意識に関する調査項目の検討」について、豊島区子ども若者総合計画改定の概要と合わせての事務局から説明をお願いします。

事務局 【資料1、2 説明】

会 長 調査票対象については、①から⑧の8種類あります。これを限られた時間の中でどのように見ていくかというところですが、「子ども本人」、「保護者」、「教員や地域団体等の大人」と大きく3種類に分けて見ていきたいと思えます。この5年間の中で、より子どもの権利に関しての最近の考え方、主体的な権利の行使というところもきちんと踏まえた質問になっているか、またはその質問によって子どもの権利に対する理解や、参加促進に関する実情を把握する質問になっているかという観点で、質問項目を見ていきたいと思えます。①～⑧まで一気に通して見ていくのではなく、対象者ごとに協議をする時間を分けて進めさせていただければと思えます。また、子どもの権利との関わりが大きい設問は赤く囲ってありますので、まずはそこを中心に見ていく形でお願いしたいと思えます。それではお気づきの点等ございましたら、ご意見をお願いいたします。

委 員 まず1ページ目ですが、「あなたの答えた内容が、他の人に知られることはありません」と書いてあり、その後の質問の中で、あなたは叩かれたりしたことがありますか、いわゆる

る虐待を受けたことがありますかという質問があるのですが、これは要するに、聞いて、聞いただけで終わって、アンケートを取るだけで終わってしまうということなのでしょうか。他の人には言わないということがもう最初に明記されているので、実際にはそのまま聞いただけで放置するということがいいのかということが一つ。もう一つ、4ページ目で、パソコンやインターネット等を見ることについて問5がありますが、これが非常に今の子どもたちに親和性があるわけですが、多くの人たちがパソコン等を使う時間にかかなりの時間を割いているという答えが出たときに、その危険性だとか誹謗中傷だとかの問題がものすごくあるわけですが、そういうことについての教育や指導は学校でされるのかどうかを伺いたいです。

事務局

ご質問ありがとうございます。まず1点目でございますけれども、今回はあくまで意識調査になりまして、回答者は特定されない実施方法になっております。そのため、仮にいいじめがあったという回答があっても、その本人を特定することができません。ただ、これが統計として出てまいりますので、どれぐらいの方がそういう思いをしているのかということは把握することができます。同様に、インターネット上の危険なサイトですとか使い方につきましても、このアンケートを元に、やはり学校サイドでどのように使うか、どのような対応をするか、それはまた教育委員会と連携をしながら情報提供してまいりたいと思っております。

委員

1ページ目一番初めの、「豊島区では、区内で子育てをする人や子どもたちのための計画作りを進めています。」という部分ですけれども、小学生、中高生に対するアンケートではこういう言葉になっていますが、若者から保護者や大人に関するアンケートには、「子どもの健やかな成長や子育てを支える施策の推進ために」というように、どのような計画なのかということが書いてあります。こういうのはやはり、計画といっても何の計画なのか、何のための計画なのかという意味を、たとえ子どもであっても、大人と同様にわかるように書いてあげたほうがと良いと思います。例えば、子育てをする人の支援はもちろん、子どもたちが健やかに生活できるための計画を作るためというふうに、子どもにもわかるような言葉でどんな計画を作るのかということに記載していただくようにしてほしいと思います。「子どもたちだから別にいいや。」というのではなく、子どもだからこそ丁寧に説明する必要があると思います。他にも、細かい項目ですが、問1で、「どこで過ごすことが多いですか」という質問への回答の選択肢の、「自分の部屋」、「自宅のリビング」というのがちょっと引っ掛かりました。私は民生委員をやっている、いろいろなご家庭を訪問することがあるのですが、子どもの「自分の部屋」がないお家も多いです。ですから、様々の住宅事情や回答するお子さんの気持ちを考えると、少し言葉を変えてもらった方がいいと思います。もう一点、問11の「あなたは学校であったことなどについて、家族の人に話を聞いてもらえますか。」という質問については、里親に育てられている子もいますし、お家の中に親のいない子もいます。そのため、「一緒に住んでいる人」もしくは「お家にいる人」という表現にしないと、「家族」という言葉に戸惑う子どももいると思いますので、聞き方は気をつけたほうがいいのではないかと思います。

会長

この点については、別の表現で問うことができるかというところを検討いただければいいのかなと思います。

委員

7ページ目の問23の「地域で何かを決めるとき、おとなは、あなたの意見を聞いていますか」ですが、この「地域」というのが、ちょっと漠然としていると思いました。私は町会もやっていますが、子どもがこれを聞かれたら、「地域ってなんだろう」と、小学生にとっては結構難しいと思います。それと、問22とは分けて、地域活動をしたことがあるまたはしてみたい、そういう質問を入れることをお願いしたいなと思います。

委員

今おっしゃったところで、問22は、私も事務局の説明を伺って、そういう配慮を考えたことなのだなと思いましたが、「参加した地域活動」ということと「参加したいと思う地域活動」というのは、違うものだと思います。ここでは、参加の実態、参加の実情を聞かなくていいのかなと思ったので、参加した地域活動でも私はいいのではないかと思います。もし、地域活動に参加することが義務のように感じるのではないかという懸念があるのであれば、例えばこの質問文の「次のうちどれですか」の後に、「参加した活動がなくても構いません」とか、そういう一言を補って、参加した活動がない場合は10に○をつけてくださいとワンクッション入れるような言葉を加えれば、義務感というようなことを和らげることになるかなと思いました。また、この参加のところで事務局の説明では、意見を聞いているだけではなくて意見が叶いましたかという内容も重要であると、それは全くその通りだと思うので、その他の設問もぜひ入れていただきたいと思います。その観点でいくと、子どもの意見を聞く場合には、「事前に話し合いをするために必要な情報が子どもにわかりやすい形できちんと提供されているのか」という点はとても重要ですので、必ず子どもたちに対し事前の説明や情報提供をしたうえで、実際に意見を聞きその意見が反映されているかというところはセットで聞く必要があるところだと思うので、そのような設問を入れるとよいのではないかと思います。それからこれは中学生、高校生、若者全てに共通しての意見ですが、冒頭の「アンケートへのご協力のお願い」のところで、「計画の説明をもう少し詳しく入れた方がいいのではないか」というご意見があり、私もとても賛成をして伺っていました。同じような観点で、結局この調査をした後の結果がどう使われるのかというところの説明がないので、それもこの「答えにくい質問があったときは無理に答える必要はありません」の後ろに、この調査結果はどのように公表して、寄せられた意見は会議で話し合っ、例えば「計画の見直しに活かしていきます」とか、「新しい計画に反映していきます」とか、その意見をどのように反映しているのかというところも聞くことが大事だという観点で、まさにこの調査自体も実施する・聞いているというだけではなくて、調査がその後どうなったのか、その後どう活かされるのかということも、説明のところに入れると良いかなと思いました。なるべくシンプルな言葉で「計画って何？」ということと、最後のところに「その結果をどう活かすのか」ということも大人の側の説明責任を果たしていく必要があるかなと思いました。

その他、気になったところは2ページ目の「あなたのことについてお聞きします」の設問で、豊島区は学年で聞くのを基本としてやっているのでしょうか。他の自治体で関わった際の配慮として、学年を聞くということが、不登校の子どもをイメージしたときに学校に行くことが前提のように感じられないかという意見がありました。ただ、学年で聞いた方がわかりやすいところもあるので、例えば、学年と年齢と表記を並列させる等、学校に登校していることが前提というふうに見えないように、そんな配慮があっても良いのかなと思いました。それから「あなたの性別」という問いへの回答欄をカッコ書きにしてあるのは、これは答えたくない子どものことや、選択肢は男女だけではないということも含めてそのようにしているのかなと思ったのですが、これも「答えたくない場合は答えな

くても構いません」と表紙に書いてはありますが、ここにも「答えたくない場合は答えなくても構いません」と書いておいてもいいのかなと思いました。最後に、問1の回答で「自分の部屋」と「自宅のリビング、居間」とを分けていることへの配慮に係るご意見がありました、「そういうふうを感じる子どももいるな」と思いました。また一方で、分けて聞くときの意図として、なかなか家族とコミュニケーションが取れず自分の部屋に引きこもっているような状態で、自分の部屋しか安心できる場所がない、自分の部屋の外に出るともう安心ができない、そういうこともあるので、そういった実態は掴める設問だと思うので、その辺りをどちらも配慮しながら説明が作れるといいなというふうに思いました。

委員 6ページ目の問19ですが、「学校で何かを決めるとき、先生はあなたの意見を聞いていますか」とあります。先生はあなたの意見も聞いていますかというのは、結局先生が聞くという形になっていますが、本来は何かを決めるときってみんなで意見を出し合って決めていくものだと思います。これだと、何か決めるときには自分の意見を取り入れて先生が聞いてくれるもの、先生が何か決めてくれるもののように受け取れるのですが、学級会や児童会等の実情と違うなと思いました。実際には学校で何か決めるときは、例えば自分たちの決まりを決めるときも、学級会で話し合ってそれを児童会に出して検討して決めていくというような形のときに、先生はオブザーバーとしているわけで、先生が聞いてくれるわけではないかと思えます。そういうところに、根本的に考え方が違うのではないかなと感じました。

会長 ありがとうございます。「あなたの意見を出す場が保障されていますか」、もしくは保障という言葉が子どもに難しければ「用意されていますか」という形に変えるというような聞き方が考えられるかと思えます。

委員 今話を伺っていてもう一つ考えたのですが、意見を聞いている、聞かれているだけではだめだというのはこの項目でも同じで、意見を取り入れられているのかというところを聞かないままでいいのかなと思いました。問19の「先生はあなたの意見を聞いていますか。」を検討するときに、前回の調査結果が何%くらいだったのかを見て「これはちょっと高すぎだな」ということであれば、やはり実態が反映できてない、こちらの聞きたいことを聞けていない設問だと考えた方がよいということも、結果を合わせて検討する必要があります。また、これも全体を通してですが、12ページ目の最後の自由記述のところ、「区役所にやって欲しいこと、あなた自身がやりたいことなど、自由に書いてください」これも前回の自由記述でどんなことが書かれてきたのかを確認して、計画に活かしていける内容を聞いていると思えるならばこれでよいと思いますが、日本に限らず様々な調査を見ている中で、自由記述の中でよく使われる言葉として「あなたは今幸せですか」、「あなたが幸せでいられるために大事だと思うことは何ですか」、このような聞き方をすると、「自分が幸せでいるために大事なことって何だろう」と考えたときに、それが学校のこともかもしれないし、家庭のことかもしれないし、地域のこともかもしれないというところを網羅できる設問だと思うので検討してみると良いかもしれません。

会長 ありがとうございます。では、中高生及び若者についてもご意見がございましたらお願いいたします。

委員 関連するところで③若者の4ページの間5の「あなたはふだんのくらい外出ぐらいますか」という設問は、引きこもりの実態を図るための質問だと思いますが、実際には、リモートワークも普及していて「家で仕事をしている」等という選択肢を入れないと、誤解されてしまうなと思いました。実際に私の周りでも、一日中家でリモートワークをしている人はたくさんいます。この設問では、本当に仕事も何もせずにひきこもっているという数量を出したいのかもしれませんが、こういう言葉だけでなく事実合った設問に修正する必要があると思いました。

会長 同じく8ページ目の間14、15の仕事に関する設問で、特にジェンダーの問題が入っていることも大事なのかなと思いました。例えば、「男女関係なく仕事ができる環境にあるか」とか、そういった内容もあるといいかなと思いました。

次は④から⑥の保護者版の検討に移りたいと思います。ここは回答者が子ども自身ではなく保護者なので、調査項目の内容は、子どもの権利との結びつきという点では子どもに対する調査項目よりも繋がりにくいところもあるかもしれませんが、子どもの意見表明や居場所、権利侵害に関する項目を、赤で囲んである設問を中心にみていただければと思います。それではお願いいたします。

委員 表紙についてですが、⑥の中高校生等の保護者用の表紙には「記入にあたってのお願い」の3番目にある「子ども用アンケートは、お子さんについて思っていることや考えていることについて自由に書くように伝えてください」とあり、これはよいのですが、その次に「保護者の方とお子さんで回答をそろえる必要はありません」という文言が入っていて、⑤の小学生の保護者用の表紙にはこの文言が入っていません。この文言の有無の違いは、あえて小学生のほうは親子で一緒にやるといったような状況を想像しているということなのでしょうか。⑥の中高校生では保護者とお子さんで別々の封筒に入れて返信というふうに書いてありますが、これはどういうシチュエーションでやるのか、⑤の小学生の方ではそういうことが書かれていないので、その違いを教えてくださいました。

事務局 特に小学生と中学生とで分けて考えているというわけではなく、中高生の保護者宛のお願いに合わせなければいけないと思っております。こちらは調整させていただきます。

会長 ⑤小学生の保護者15ページ目と⑥中高生等の保護者13ページ目のところで、「子育て支援に関する施策や事業」で、「子どもの権利に関して知る場を設けてほしい」という選択肢を入れて、保護者からの要望はあるのかなということを確認してみるといいのかなと思いました。また、④の就学前の乳幼児のところですと、19ページ目の間48「子どもを連れて外出する際に気にかかる点」では、子連れでいることに対する周りの目といいですか、例えば「電車の中とかで冷たい視線を感じる」ということがあるか、地域の環境として聞いてみていただけるといいかなと思います。

委員 ⑤の14ページの間46の「あて名のお子さんには、安心して自分の気持ちや悩みを話せるおとながいると思いますか。」これは大人にも聞くとよいと、他の自治体で子ども調査を実施したときに感じたことでした。大人自身が自分自身の気持ちや悩みを話せる人がいるかどうかで、いないに○をつける方というのが何割かいらっしゃって、そこが非常に心

配でした。ですので、そういったところをキャッチする数字にするという意味で、他の自治体でも効果的な設問だったので、大人自身にも「あなたが安心して自分の気持ちや悩みを話せる人が誰かいますか」と尋ねる設問を加えたらどうかと思いました。

会 長 それでは最後に、⑦教員・職員、⑧地域団体等に移りたいと思います。

委 員 ⑦の職員・教員の2ページ目の問1から3ページ目の問9まで「あなたの職場の子ども」という言葉が出てきますが、もうちょっと対象が絞る必要があると思います。例えば、回答者が学級担任だったとしたときに、問2「あなたの職場の子どもには、何でも話せる友達がいると思いますか」と問われたら、友達がいる子もいるし、いない子もいる、どうやって答えていいのか難しい設問だと思います。

委 員 具体策を持っているわけではないのですが、読ませていただいたときに「自分だったらどう答えるか」をそれぞれのところで考えてきたのですけれども、例えば5ページ目の問17「あなたは、職場で子どもに関わることを決めるとき、子どもの思いや考えを取り入れていますか」というところで、学校の運営方針に「子どもの思いや考えを取り入れるか」と聞かれたら、実態は異なると思います。その一方で、授業の中では子どもたちの意見をたくさん取り入れて話を深め、内容を深めていくような授業を組み立てるようになっていきますので、例えば設問を「授業・保育の内容や行事等を決めるときに、子どもの思いや考えも取り入れていますか」と、このようにしてみてはいかがかと思いました。

委 員 今のご意見はその通りだと思います。運営方針というのは、これは学校全体の運営方針、学年の運営方針、学級経営というふうに細かくあります。ですが、こうやって大雑把に聞かれてしまうと、本当に答えようがありません。さっきもご意見があったように、「あなたの職場の子ども」となると、いろいろな子どもがいるので、それはちょっと答えにくい。ため、限定するか、範囲を決めるかした方が良いと思います。それから、問19「あなたは、職場で子どもの話をよく聞いていますか」についても、給食のときに雑談で聞いていることと、悩みを聞いて相談するということとは違うと思います。ここで一番聞きたいのは、子どもが先生に悩みを相談できているかどうかということです。これ設問として挙げていただきたいなと思います。というのは、子どもに今までいろいろ聞いてみると、学校の先生には言いにくいということがすごく多いですね。だから先生から見て実際にどうなのか、統計を取ることができたら良いなと思いました。

会 長 ありがとうございました。そうすると、「子どもの悩みをよく聞いていますか」「よくコミュニケーションをとっていますか」、このような分け方があると良いかと思いました。

委 員 確かに聞き方が大雑把だと思います。「意見を聞いているか」「思いや考えを取り入れているか」というのはとても大雑把で、まさに子ども基本法が成立して、子どもの意見をどう尊重していくのかということがいよいよ問われるというときに、何について意見を聞いているかどうか、もう少し詳しく聞いていいタイミングなのかもしれないと思いました。例えば授業では取り入れやすいけれども、校則やルールについてはどうなのかとか、運営方針のところはどうなのかとか、もう少しそこを具体的に、何か決めるときに子どもの思いや考えを取り入れているかという設問は子どもの方も大人の方ももう少し丁寧に聞い

ていい、今回はちょうどそのタイミングなのではないかと思ったので、経年変化というところへの意識はありますが、そこはより詳しく聞くということで、もっとこの意見表明、参加というところが数値化できるとよいのではないかなと思いました。大雑把な設問だと実態とは異なる何となくそこそこ高い数字が出てきてしまうということになってしまいます。やはり計画に活かして評価に繋げていくことが大事だと思いますので、今回の調査では、より具体的に聞くのがよいのではないかと思いました。

会 長

問 17 ですが、今のところでいうと、「行事に関して」とか「学校保育の教育内容について」等いくつか分けて、それぞれについて取り入れている、取り入れているということも聞いてもよいのかなと思いました。私も今までに行った他の調査で、例えば「インクルーシブ教育を取り入れているか、取り入れなかったか」というような調査をしたときに、「それはなぜですか」と聞いてみると、「教育課程に入っていないから」「忙しいから」「人手が足りないから」「専門的な知識がないから」等、要因を聞いてそれを取り除く方策が立てられると思うので、子どもの思いや考えを取り入れていますかと言ったときに、うまくまとめられなかったらどうしようとか取り入れすぎることへの懸念を先生が持っていたり、先生は取り入れたいけれども学校の方針で取り入れられないとかいろいろな理由があると思うので、取り入れている場合も、取り入れている場合も、それはなぜですかというのを聞いてみたいかなと思いました。あとはストレートな質問として、子どもの権利を保障するという取り組みにおいて「あなたが自分に今後必要だと思っている知識や技術があれば書いてください」ということで、「自分が子どもの権利を保障していく立場になるんだよ」と言われたときに、どういう不安をお持ちになるのかなということを知るといいのかなと思いました。

委 員

例えば問 16 の、「あなたは、職場のある地域の活動・イベントや話し合いに参加していますか」、これはよほどのことでない限り、放課後の教員には時間的に難しいことだと思います。問 20 の「あなたは、職場の子どものことをわかっていると思いますか」というのも何を以て「わかっている」とするのか、非常に答えにくいと思います。

会 長

それでは、また細かいところはあるかと思うのですが、今回いただいたご意見を調査票の修正をしていただき、次回に改めて見て、さらに具体的な項目を入れていくということでもよろしいでしょうか。短い時間の中でご意見どうもありがとうございました。それでは、報告事項に移りたいと思います。

【報告事項】

南野会長

報告案件は全部で6つありますが、全ての案件の説明が終わった後に、質問等ございましたら伺いたいと思います。それでは、(1)「としま子どもの権利相談室」の開設について、子ども若者課長よりお願いいたします。

子ども若者課長

【資料3 説明】

会 長

ありがとうございました。それでは、報告の(2)「子どものための相談カードのキャラクター」について、子ども家庭支援センター長から説明をお願いします。

子ども家庭支援センター長 【資料4 説明】

会 長 ありがとうございました。それでは、報告の（3）「令和5年度としま子ども会議の実施概要」について、子ども若者課長から説明をお願いします。

子ども若者課長 【資料5 説明】

会 長 ありがとうございました。それでは、報告の（4）「中学校内居場所づくり」について、放課後対策課長から説明をお願いします。

放課後対策課長 【資料6 説明】

会 長 ありがとうございました。それでは、報告の（5）「子ども版区民の声“子どもレター”」について、区民相談課長から説明をお願いします。

区民相談課長 【資料7 説明】

会 長 ありがとうございました。それでは、報告の（6）「中小規模公園活用プロジェクトの取り組み」について、公園緑地課長から説明をお願いします。

公園緑地課長 【資料8 説明】

会 長 ありがとうございました。以上で全ての報告案件の説明が終わりましたが、私から一点、子どもレターで170通の実績があったということですが、これは子どもからのレターが170通来て、それを全てお返事するのですか。

区民相談課長 子どもレターは、お名前と住所を書いてもらうのですが、住所が書かれていない方には返信ができません。ただし、今後の予定なのですが、住所を書いていない方のご意見も内容をホームページに出して、そこに回答もつけようと考えております。将来的には、そのようにしてどなたから来たレターについても、区としてできる限り応えていきたいというふうに考えております。

委 員 子どもレターの取り組みは、素晴らしいなと思って伺っていました。アンケートとの関係で例えばこの相談カードのキャラクターの「なやミミ」や「すいトリ」をアンケートの方に入れてもよいのではないかなと思いました。委員会の冒頭で、「このアンケートは聞いて終わりなのか」というようなご意見もありましたが、まさに聞くことがメインの実態調査ではあるのですが、やはり情報提供をできる場でもあるので、相談救済に関する内容のところに、このキャラクターを取り入れると良いのではないかなと思いました。また、調査の回答はウェブベースも考えているかと思いますが、そのときにリンクを貼っておくと回答しながら情報を得ることもできるので良いと思いました。自分でインターネット検索するというのではなくて、クリックしたときに情報がすぐ見られるような形にすると、体罰とか虐待に遭っている子どもが、このような機関に結びつきやすくな

る一つの手助けにもなると思いました。

委 員

このすいトリは非常に可愛くてよいと思うのですが、みんな何か吸い取った後のような気がして、これ以上吸い取れないのではないかという印象を持ちました。真っ白で小さいすいトリが、成長していくと黒くなって最終的に大人になると真っ黒になるというキャラクターでもよかったのではと思いました。

南野会長

それでは、本日の案件は以上となります。ありがとうございました。

以上